

こんなにも強欲な自分を静雄は知らなかった。帝人の存在によって、初めて知った。彼が教えてしまった。だから、帝人が悪い。そう、だから、——だから、静雄は帝人を抱く。躊躇することもなく、本能が望むとおりに。ひたすらに、その悦楽を堪能する。すべては、それからだった。